

多文化共生のまちづくりに関するアンケート結果

<調査概要>

- ・ 2026 年 5 月 28 日～6 月 12 日の間、オンライン上で実施。回答者は 186 人。
- ・ 日本人住民向け依頼方法：行政ホームページ、村公式 LINE
- ・ 外国籍住民向け依頼方法：Facebook

<特記事項>

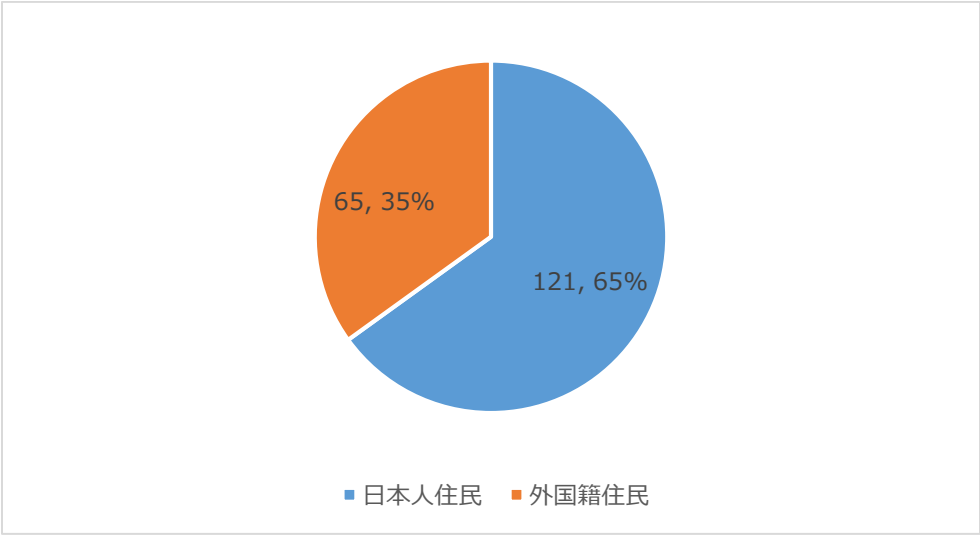
- ・ 本村の人口比率は 9:1 で日本人住民のほうが多いため、住民間の日常的な接点には偏りがある点に留意する必要がある
- ・ 日本人住民による日本語の回答と、外国籍住民による日本語・外国語での回答を日・英に翻訳しているため、表現の細かなニュアンスに差異が生じている可能性がある

<調査結果の概要>

本調査により、本村では日本人住民と外国籍住民が、既に同じ地において隣り合わせで生活をしている実態が改めてわかりました。また、外国籍住民の出身地や世帯構成もさらに多様化してきていることも判明しました。

日本人住民の視点からは、地域ルール・マナー、常識や慣習の理解に対して改善の余地があるとの意見が多く見られました。文化が違えば常識も異なるということを前提に、受入側である日本人住民の意識改革も含め、理解を深めるための啓蒙活動の強化やコミュニケーションの工夫が重要であることを示唆しています。一方、外国籍住民は手続きや言語の壁に直面しつつも、多くの人が今後も白馬に住み続けることを希望していることからわかるとおり、前向きに乗り越えたいと考えている人が多いことがわかりました。また、日本人・外国籍住民両方から交流しやすい環境や場の提供を望んでいる声が多く、国籍のみならず年齢・性別・出身関係なく、同じコミュニティの一員として共生していく方法を考えていくことが急務であることがわかりました。

1. 日本人住民用の設問と、外国籍住民用の設問があります。あなたはどちらに該当しますか？

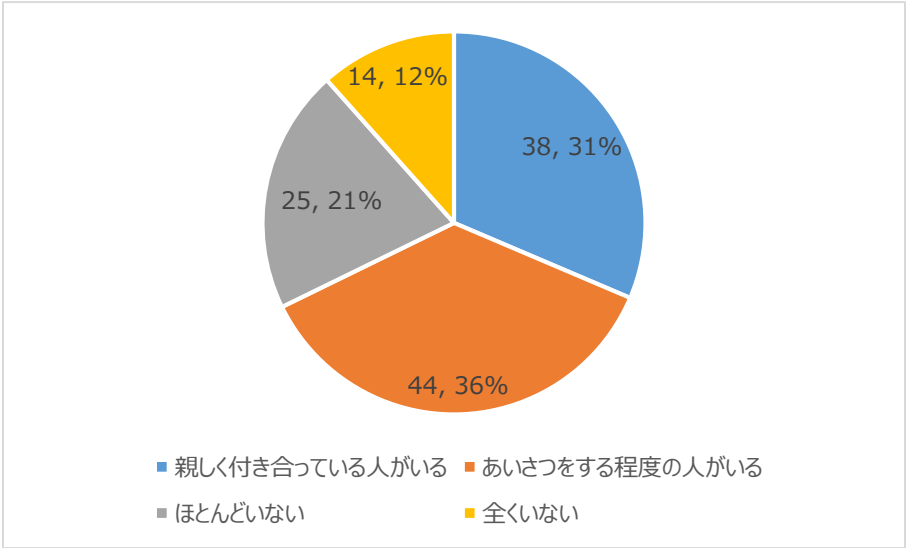


回答	人数（人）	人数（%）
日本人住民	121	65.05
外国籍住民	65	34.95

計 186

【以下、日本人向け設問】

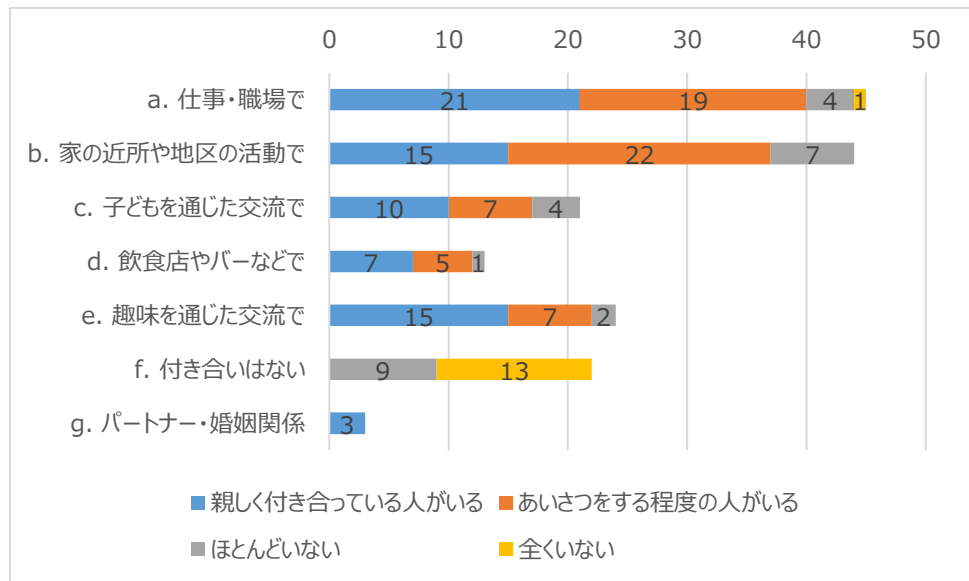
2. 日常的に接点を持つ外国籍住民はいますか？



回答	人数（人）	人数（％）
親しく付き合っている人がある	38	31.67
あいさつをする程度の人がある	44	36.36
ほとんどいない	25	20.83
全くいない	14	11.67

結果を見ると、「親しく付き合っている人がある」と「あいさつをする程度の人がある」をあわせた割合が 7 割弱となっており、本村では日本人住民と外国籍住民がともに生活を送ることが日常となっていることが推測できる。

3. どのようなところで付き合いがありますか？（複数選択可）



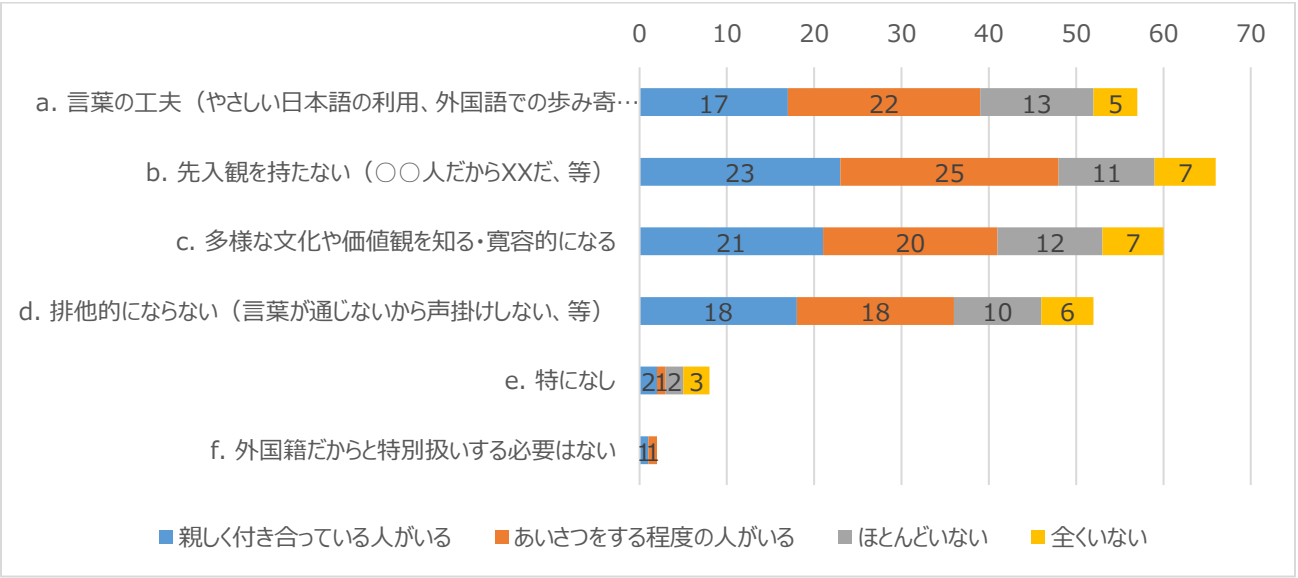
回答	人数（人）					割合（％）				
	親しく付き合っている人がいる	あいさつをする程度の人がある	ほとんどいない	全くいない	総計	親しく付き合っている人がいる	あいさつをする程度の人がある	ほとんどいない	全くいない	総計
a. 仕事・職場で	21	19	4	1	45	55.26	43.18	16	7.14	37.19
b. 家の近所や地区の活動で	15	22	7	0	44	39.47	50	28	0	36.36
c. 子どもを通じた交流で	10	7	4	0	21	26.32	15.91	16	0	17.36
d. 飲食店やバーなどで	7	5	1	0	13	18.42	11.36	4	0	10.74
e. 趣味を通じた交流で	15	7	2	0	24	39.47	15.91	8	0	19.83
f. 付き合いはない	0	0	9	13	22	0	0	36	92.86	18.18
g. パートナー・婚姻関係	3	0	0	0	3	7.89	0	0	0	2.48

付き合いの程度に関係なく、「a.仕事・職場で」と「b.家の近所や地区の活動で」と回答した人が圧倒的に多いほか、「b.家の近所や地区の活動で」と回答した人の割合は「全くいない」を除く全付き合いの程度において約 3～5 割と高い割合となった。

また、「e.趣味を通じた交流で」と回答した 24 人のうちの過半数（15 人）は「親しく付き合っている人がいる」と回答した人となっている。この結果から、付き合いの程度が多いほど、自ら進んで交流を図っている人が多いと推測できる。

4. あなた自身が同じ地域で外国籍住民と生活していく上で、大切なことは何だと思いますか？（複数選択可）

回答	人数（人）					割合（％）				
	親しく付き合っている人がいる	あいさつをする程度の人がいる	ほとんどいない	全くいない	総計	親しく付き合っている人がいる	あいさつをする程度の人がいる	ほとんどいない	全くいない	総計
a. 言葉の工夫（やさしい日本語の利用、外国語での歩み寄り、等）	17	22	13	5	57	44.74	50	52	35.71	47.11
b. 先入観を持たない（〇〇人だからXXだ、等）	23	25	11	7	66	60.53	56.82	44	50	54.55
c. 多様な文化や価値観を知る・寛容的になる	21	20	12	7	60	55.26	45.45	48	50	49.59
d. 排他的にならない（言葉が通じないから声掛けしない、等）	18	18	10	6	52	47.37	40.91	40	42.86	42.98
e. 特になし	2	1	2	3	8	5.26	2.27	8	21.43	6.61
f. 外国籍だからと特別扱いする必要はない	1	1			2	2.63	2.27	0	0	1.65
計	82	87	48	28						
1人あたり回答数	2.16	1.98	1.92	2						



あまり差が出ない結果になった。回答者一人当たりの回答の数を見ても、付き合いの程度による差は見られなかった。

5. あなたのまわりにいる外国籍住民に対して困っていることはありますか？なるべく具体的に記載をお願いします（自由記述）

回答	人数（人）					割合（％）				
	親しく付き合っている人がいる	あいさつをする程度の人がいる	ほとんどいない	全くいない	総計	親しく付き合っている人がいる	あいさつをする程度の人がいる	ほとんどいない	全くいない	総計
a. 地域ルール・マナー、常識、慣習、等	11	13	8	3	35	28.95	30.23	32	21.43	28.93
b. ゴミ関連	3	6	3	1	13	7.89	13.95	12	7.14	10.74
c. 違反行為	1	7	2	1	11	2.63	16.28	8	7.14	9.09
d. 外国籍経営事業関連	1	6	4		11	2.63	13.95	16	0	9.09
e. 行政・学校の伝え方、情報発信	1	1	1		3	2.63	2.33	4	0	2.48

自由記述式の回答であったにも関わらず、「a.地域ルール・マナー、常識、慣習、等」に関する記載が 35 件（28.93％）と圧倒的に多かった。その次に、「b.ゴミ関連」「c.違反行為」「d.外国籍事業者関連」が 10％前後で並んでいる。なお、付き合いの程度が多いほど、困りごとが少ないとは限らないことがわかる。

<回答（一部抜粋、修正有）>

◆地域ルール・マナー、常識、慣習、等

- ・ ルールを守らない（5 名）
- ・ 日本文化を理解しようとする歩み寄りが感じられない、自国の文化で過ごそうとしている（5 名）
- ・ 夜間の騒音（2 名）
- ・ 地区加入の理解が得られない（2 名）
- ・ 隣人の屋根雪が自分の敷地内に入ってしまうことに対して、何度かお願いをしているが解決に至らない（2 名）
- ・ 飼い犬の糞を拾わなかったが、指摘したら拾うようになった（2 名）
- ・ 細かいニュアンスが伝わらない
- ・ 車も通行する道で横に広がって歩く
- ・ 共有物の使用時に、次の利用者や他人のことを考えていない
- ・ 道で食べ歩きをしている
- ・ 大きな声で話す人が多いと感じ、少し不快に感じる
- ・ 温泉で水着を着用している

◆ゴミ関連

- ゴミの分別方法を理解していない、分別ができていない（4名）
- タバコや空き缶などゴミのポイ捨てをする（4名）

◆違反行為

- 交通マナー、特に自動車の運転速度、煽り運転など危険が目立つ（5名）
- 私有地に無許可で入る（3名）
- 解体処分を行った際に発生した廃材を庭の焼却炉で焼却しているため、いつか火災に発展するのではないか心配（2名）
- ビザなし就労
- 公共地に私有物を置くような行為が見られる
- 英語での落書きが村内にたくさんある

◆外国籍経営事業関連

- 外国籍経営の貸別荘のゴミの管理ができていない、マナーが良くない（4名）
- 外国籍用スタッフ寮の入居者による迷惑行為
- 自分が購入した土地だからといって、周囲環境を考えずに開発を進めている

◆行政・学校の伝え方、情報発信

- 行政や学校からの様々な情報が多言語で発信されていない（3名）

◆その他

- 外国籍だからという理由で困ることは一切ない。また、中長期滞在者に対しては積極的に地区活動に参加してご近所づきあいもしてくださる人が多いので問題なし（4名）
- 外国籍住民同士で別コミュニティを形成してしまい、コミュニティが分断されてしまっていること。外国籍住民だけではなく、国内からの移住者も同様の傾向がある（2名）
- 日本にリスペクトを持って滞在されている方は大歓迎だが、金稼ぎや遊びのためだけに滞在している人と一緒にされて嫌なことを言われてしまうのが問題
- 転売目的の不動産取得

6. より良い多文化共生のまちづくりを推進するために日本人側としてできること、やりたいことなどあれば教えてください（自由記述）

回答	人数（人）					割合（％）				
	親しく付き合っている人がいる	あいさつをする程度の人がいる	ほとんどいない	全くいない	総計	親しく付き合っている人がいる	あいさつをする程度の人がいる	ほとんどいない	全くいない	総計
a. 行政・まちづくり関連	7	9	4	3	23	18.42	20.93	16	21.43	19.01
b. 地域ルール・マナー、常識、慣習、等について教える	6	5	4		15	15.79	11.63	16	0	12.4
c. 交流の機会	5	8	1		14	13.16	16.28	4	0	11.57
d. 受入側への教育	4	1			5	10.53	2.33	0	0	4.13

自由記述式の回答であったにも関わらず、「a.行政・まちづくり関連」が23件（約20%）と圧倒的に多く、続いて「b.地域ルール・マナー、常識、慣習、等について教える」「c.交流の機会」も回答の割合も10%以上と多かった。

また、「c.交流の機会」「d.受入側への教育」に関しては、付き合い程度が多い人の回答が多く、特に「d.受け入れ側への教育」に関しては「親しく付き合っている人がいる」人の約10%が回答した。付き合い程度が多い人のほうが、日本人・外国籍住民双方の歩み寄りが大切と考えられていると推測できる。

<回答（一部抜粋、修正有）>

◆行政・まちづくり関連

- 村のお知らせ、防災放送、看板の多言語化（4名）
- 村や地区の条例やルール・マナーをきちんと整備し、守ってもらえるよう体制を整える（3名）
- 地域の先人が築き上げたものを基本に、外からきた人々が持ち込んできた新しい視点やアイデアを取り入れていくことが望ましい（2名）
- 外国籍住民がまちづくりに参加できるよう、区長等の役割を与えることや、コミュニティの一員として歓迎することが必要（2名）
- 役場でルール・マナーの講習や説明を行う（2名）

◆地域ルール・マナー、常識、慣習、等について教える

- 日本の文化や風習を素晴らしいと思ってもらえるように、良いこと駄目なことや違和感を覚えることについて理由とともに、同じコミュニティの一員として教えていく（15名）

◆交流の機会

- 新しく移住してきた方々（外国籍、日本人問わず）と一緒に行事やイベントに参加する、行事やイベントに誘う、区に入ってもらよう声掛けする。特に、食・スポーツ・ゲーム等を通じた交流が良い（5名）

- 外国籍住民の出身国の文化や食を知ることができるようなイベントを開催する。ハロウィンやクリスマスなど外国の文化イベントを体験できる場を用意する（3名）
- 意見交換ができる環境を整え、個人・地区・行政それぞれが対応する努力が必要（3名）

◆受入側の教育

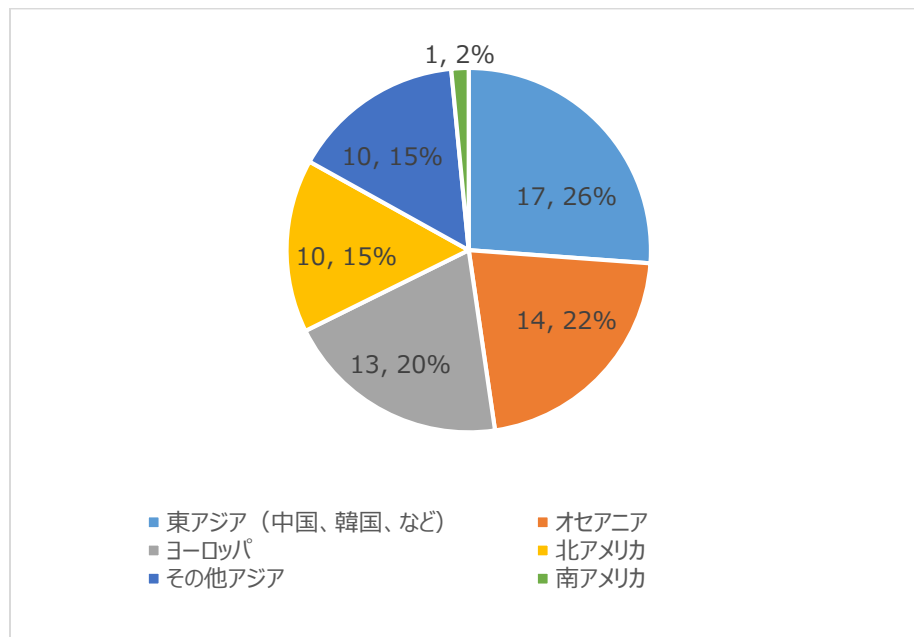
- 一部の外国籍の方々のイメージでできている差別意識をなくすために、受入側に対する教育やバイアスを排除する仕組みが必要（7名）
- 受入側が英語でコミュニケーションできるよう、英会話を学ぶ場がほしい（3名）
- 日本の常識が世界の常識ではないことを理解し、外国籍の方々が知らないだけの可能性があることを理解すること（2名）
- 地域の隣人として、外国籍住民とのコミュニケーションに慣れる（2名）

◆その他

- まずは笑顔で話しかけること、普段からの挨拶（4名）
- 国籍や見た目に関係なく、平等に接することが大切（2名）
- 住んでいる外国籍の方々は本当に日本と白馬が好きな印象なので大歓迎（2名）

【以下、外国籍住民向け設問】

7. 出身地を教えてください

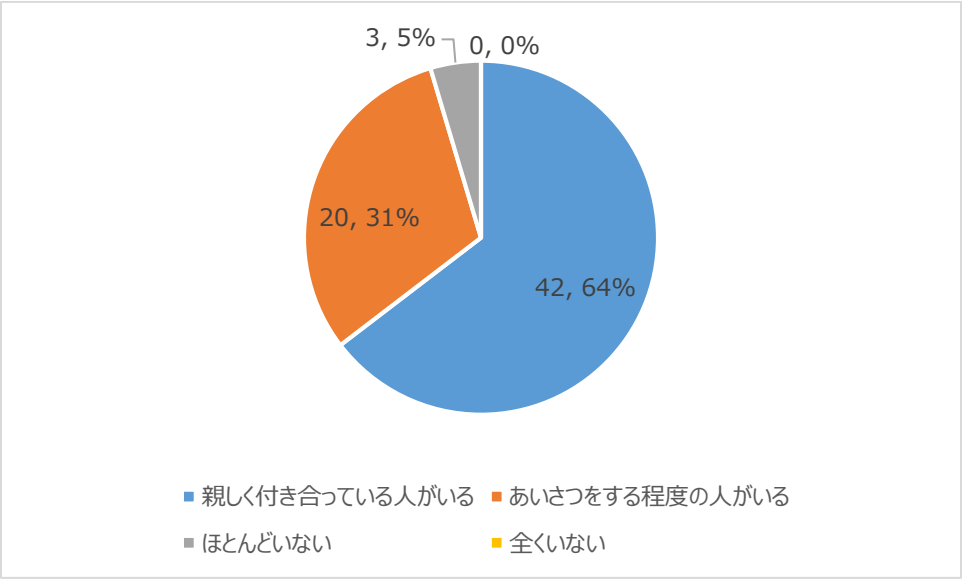


回答	人数（人）	人数（％）
東アジア（中国、韓国、など）	17	26.15
オセアニア	14	21.54
ヨーロッパ	13	20
北アメリカ	10	15.38
その他アジア	10	15.38
南アメリカ	1	1.54

計 65

結果を見ると、本村には一部地域からではなく、世界中様々な地域から集まった人々がともに生活していることがわかる。

8. 日常的に接点を持つ日本人はいますか？

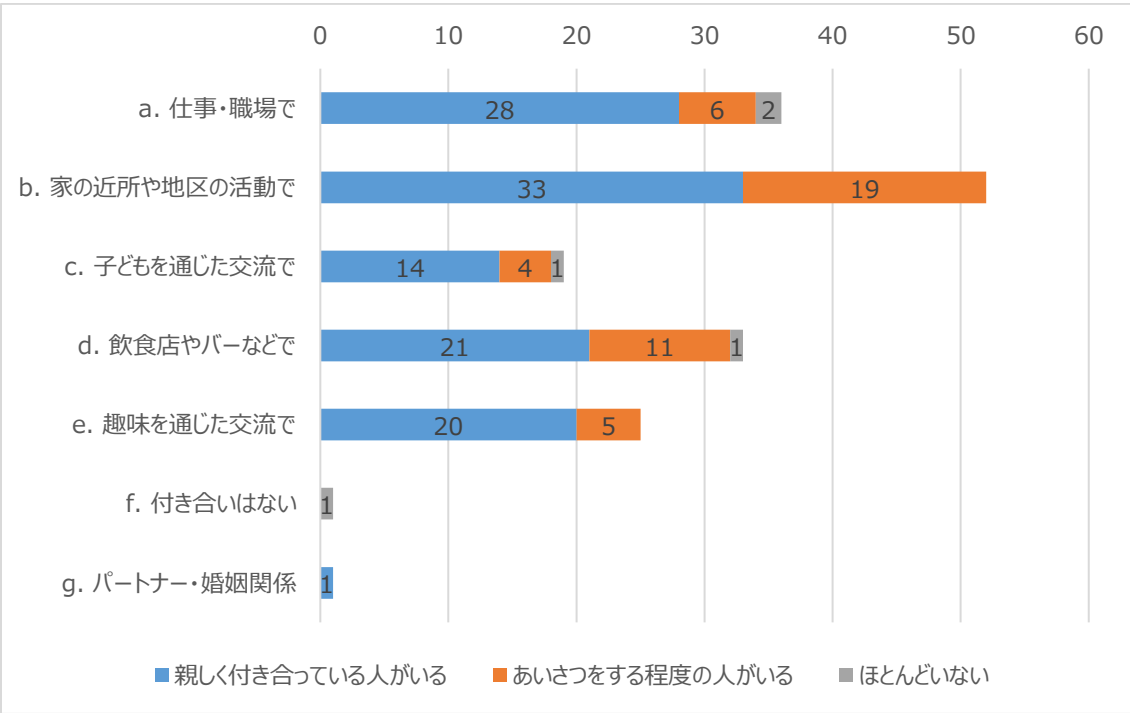


回答	人数（人）	人数（％）
親しく付き合っている人がある	42	64.62
あいさつをする程度の人がある	20	30.77
ほとんどいない	3	4.62
全くいない	0	0

計 65

「親しく付き合っている人がある」と回答した人の割合が6割超で、積極的に日本人住民と関わろうとしている様子が伺える。

9. どのようなところで付き合いがありますか？（複数選択可）

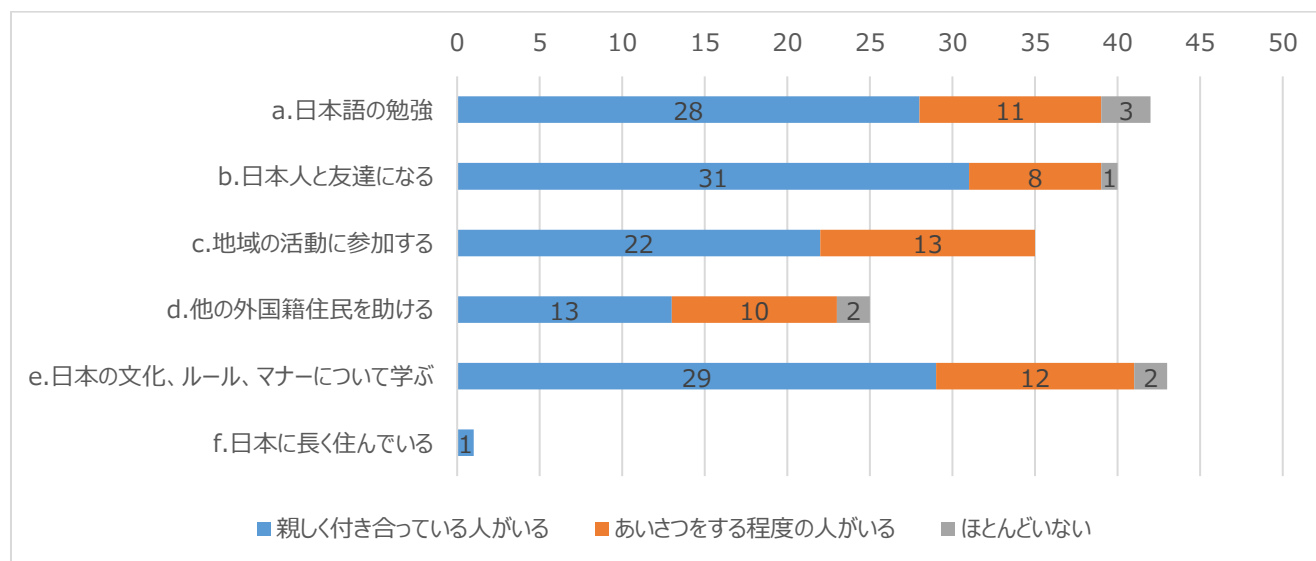


回答	人数（人）				割合（％）			
	親しく付き合っている人がいる	あいさつをする程度の人がある	ほとんどいない	総計	親しく付き合っている人がいる	あいさつをする程度の人がある	ほとんどいない	総計
a. 仕事・職場で	28	6	2	36	66.67	19.5	66.67	55.38
b. 家の近所や地区の活動で	33	19		52	78.57	61.75	0	80
c. 子どもを通じた交流で	14	4	1	19	33.33	13	33.33	29.23
d. 飲食店やバーなどで	21	11	1	33	50	35.75	33.33	50.77
e. 趣味を通じた交流で	20	5		25	47.62	16.25	0	38.46
f. 付き合いはない			1	1	0	0	33.33	1.54
g. パートナー・婚姻関係	1			1	2.38	0	0	1.54

結果を見ると、「b.家の近所や地区の活動で」と回答した人の割合が80%と圧倒的に多く、日本人・外国籍住民が隣り合わせで生活を営んでいることがわかる。付き合いの程度関係なく、約半分の人が「a.仕事・職場で」「d.飲食店やバーなどで」付き合いがあると回答しているが、「あいさつをする程度の人がある」の回答割合を見ると、「b.家の近所や地区の活動で」「d.飲食店やバーになどで」以外の回答が少なく、日本人と同じコミュニティに自らの意思で入っているかの分かれ目となっていると推測できる。また、全体の約3割の人が「c.子どもを通じた交流で」と回答しており、少なくとも約3割以上的人是は子持ちであることがわかる。

10. 白馬村で生活するためにあなた自身が努力していることはありますか？（複数回答可）

回答	人数（人）				割合（％）			
	親しく付き合っている人がいる	あいさつをする程度の人がいる	ほとんどいない	総計	親しく付き合っている人がいる	あいさつをする程度の人がいる	ほとんどいない	総計
a.日本語の勉強	28	11	3	42	66.67	55	100	64.62
b.日本人と友達になる	31	8	1	40	73.81	40	33.33	61.54
c.地域の活動に参加する	22	13		35	52.38	65	0	53.85
d.他の外国籍住民を助ける	13	10	2	25	30.95	50	66.67	38.46
e.日本の文化、ルール、マナーについて学ぶ	29	12	2	43	69.05	60	66.67	66.15
f.日本に長く住んでいる	1			1	2.38	0	0	1.54
計	124	54	8					
一人当たり回答数	2.95	2.7	2.67					



「a.日本語の勉強」「b.日本人と友達になる」「e.日本の文化、ルール、マナーについて学ぶ」の回答率は6割超で多いが、「c.地域の活動に参加する」は少し少なく、付き合いの程度が「ほとんどいない」と回答した人にいたっては0人となっている。日本人が大多数を占めるコミュニティやグループに入っていくことが難しいと感じている可能性があることがわかる。また、「親しく付き合っている人がいる」と回答した人の約7割が「b.日本人と友達になる」と回答している中、他の付き合い程度の人とは3～4割ほどにとどまっている。

11. 白馬村での生活で困っていることや嫌なことはありますか？（自由記述）

回答	人数（人）				割合（％）			
	親しく付き合っている人がいる	あいさつをする程度の人がいる	ほとんどいない	総計	親しく付き合っている人がいる	あいさつをする程度の人がいる	ほとんどいない	総計
手続等の情報収集	7	1		8	16.67	5	0	12.31
よそ者扱い・偏見の目	4	2	1	7	9.52	10	33.33	10.77
言語の壁・日本語教室の不足	4	2	1	7	9.52	10	33.33	10.77

自由記述の質問であり、回答の偏りは見られなかったが、上記 3 点に関連する意見はそれぞれ約 1 割の人が記載をしていた。

<回答（一部抜粋、修正有）>

◆手続き等の情報収集

- 税金、健康保険、年金、転居、支払等の手続きが複雑でわからない（4 名）
- 役場で税金、手続き等の情報を得るのが難しい。英語による情報が欲しい（2 名）

◆よそ者扱い・偏見の目

- 外国籍であるという理由で歓迎されない（6 名）
- 日本人コミュニティと外国籍住民コミュニティの分断を感じる

◆言語の壁・日本語教室の不足

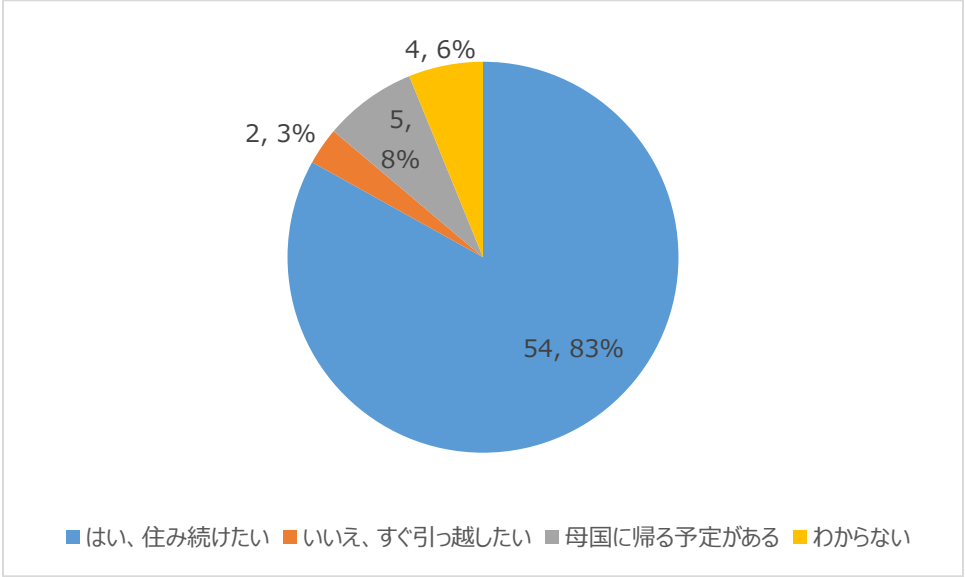
- 体系的に日本語を学べるところを見つけられていない。平日夜間や週末に日本語を学べる機会が欲しい（3 名）
- 地域のイベント、子供関係など日常生活において日本語が必要となるが、自分の日本語が上手ではない（2 名）
- 冬の間、日本人との接点が減ってしまうため、日本語の勉強が思うようにできない
- 来村直後は言語の壁があったが、今は問題ない

◆その他

- 困りごとはない。日本人は親切。日本語が上手ではない自分に対してわかりやすいようコミュニケーションをとってくれる（12 名）
- 賃貸アパートの空き部屋がない。家賃が高い（4 名）
- 村内の出来事やイベントについてもっと知りたい（3 名）
- 生活コストが高い一方で、収入はそれほど高くない（2 名）
- 経営管理ビザの在留資格の更新条件が厳しくなったため困っている（2 名）

- 日本語が十分に話せない状態で、ビジネスを行うのは難しい
- グリーンシーズンの仕事（パートタイム）を見つけるのが難しい
- コミュニティの中心となるような公園やコミュニティスペースがない
- 日本人と積極的に交流することにより、寂しさを感じてしまうため、友達がつかれないでいる

12. 今後も白馬村に住み続けたいですか？



回答	人数（人）				割合（％）			
	親しく付き合っている人がいる	あいさつをする程度の人がいる	ほとんどいない	総計	親しく付き合っている人がいる	あいさつをする程度の人がいる	ほとんどいない	総計
a.住み続けたい	35	16	3	54	83.33	80	100	83.08
b.すぐに引っ越したい	1	1		2	2.38	5	0	3.08
c.母国に帰る予定がある	3	2		5	7.14	10	0	7.69
d.わからない	3	1		4	7.14	5	0	6.15

付き合いの程度関係なく、「a.住み続けたい」と回答した人が 8 割超であり、今後も村民としてともに生きていくことを希望している人が多いことがわかる。